

議事録

会議の名称	令和4年度第5回西東京市総合計画策定審議会	
開催日時	令和4年4月26日（火曜日）午前10時から12時まで	
開催場所	西東京市役所田無庁舎3階庁議室	
出席者	<p>市川武志委員、伊藤一雄委員、伊藤泰彦会長、河野美晴委員、小松真弓委員、佐久間雄一委員、佐々木亮翔委員（※）、篠原京子委員、土井隆司委員、松川紀代美委員（50音順）</p> <p>事務局：保谷企画部部長、佐野企画部副参与兼企画政策課長、鹿森企画政策課課長補佐、里企画政策課主査、小倉企画政策課主査、齋藤企画政策課主任、佐藤企画政策課主任、鎌田企画政策課主事</p> <p>（欠席）中島伸委員、中嶋亮太委員</p> <p>※西東京市総合計画策定審議会の運営に関して必要な事項の制定について（令和3年10月21日付3西企企第231号市長決裁）第2の規定に基づき、出席扱いとする。</p>	
議題	<p>議題1 開会</p> <p>議題2 諮問</p> <p>議題3 諮問事項に対する協議検討</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 年間予定について</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 市民意識調査・中学生まちづくりアンケートについて（報告）</p> <p style="padding-left: 20px;">(3) 市民参加手法について</p> <p>議題4 その他</p>	
会議資料の名称	資料1	令和4年度西東京市総合計画策定審議会会議予定（案）
	資料2	令和4年度西東京市第3次総合計画策定スケジュール（案）
	資料3	令和3年度 市民意識調査の結果概要について
	資料4—1	令和3年度 中学生まちづくりアンケートの結果概要について
	資料4—2	令和3年度 中学生まちづくりアンケート報告書
	資料5	西東京市第3次総合計画策定に係る市民参加について（案）
	参考資料1	事務局等体制一覧
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録	
会議内容		
<p>議題1 開会</p> <p>会長より開会の挨拶</p>		

議題2 諮問

市長より西東京市総合計画策定審議会へ諮問（諮問書の授受）

「西東京市第3次基本構想案、基本計画案の策定について」

○会長：

傍聴要領に基づき、傍聴人の入室を認める。

議題3 諮問事項に対する協議検討

(1) 年間予定について

事務局より資料1及び2に沿って説明

○会長：

幅広い視点を持って総合計画を策定することが必要である。アウトリーチは10月に事務局から報告してもらおう予定だが、委員に実際にイベント等に足を運んでもらっても良いのではないか。

○委員：

ワークショップ開催情報を事務局から共有頂いて、委員もワークショップに参加して現場を見ることができたら良い。

(2) 市民意識調査・中学生まちづくりアンケートについて（報告）

事務局より資料3及び資料4に沿って説明

○事務局：

学生市民委員について、事前に意見を聴取し、動画にしているためご覧いただきたい。

《インタビュー動画の内容》

○委員：

中学生まちづくりアンケートについて、娯楽施設が欲しいという意見が多くあるが、娯楽施設を実際に作ったとして、学生は行くだろうが、高齢者は娯楽施設には足を運ばないのではないか。近隣市には娯楽施設があるので、市内に施設を作るのではなく、その施設への交通網を拡充すれば良いのではないか。

また、将来の居留意向で「どちらともいえない」が圧倒的に多いことに驚いた。自分だったら、西東京市にしか住んだことがない上に今後の就職を考えると「住みたくない」と回答するだろう。「住みたい」や「住みたくない」という回答には確固たる意思があるが「どちらともいえない」については「住みたい」という意見へ動かせるという望みがある

とも考えられる。

《動画終了》

○委員：

若い人はもともと外に出ていきたいという気持ちを持っているもので、経年で大きく低下するようなことがなければ、「愛着度」の割合が低くても問題と捉えなくても良いのではないか。他の委員が言うように「どちらともいえない」を「住みたい」に変えられたら未来があるかもしれない。

○会長：

若い人に愛着を持ってもらうきっかけとなるには、まちのことを知ってもらうことである。

○委員：

市民意識調査の満足と不満の理由の一番が、どちらも「買い物について」である。10年後はほとんどの人がスマホを持っているだろうから、大多数の人の利便性のためにデジタル化・オンライン化を強力に推進することも市民サービス向上につながるのではないか。

○会長：

10年後の技術やサービスを見通すことは難しいが、そうした視点は重要である。

○委員：

自分が居住する市の公共施設は2時間200円ほどで使用できる。公共施設ではさまざまなイベントや教室を開催している。そのような情報について親は子どものために調べるが、それ以外の人も公共施設のように安く使用できる場を知ることができるが良い。

○会長：

中学生まちづくりアンケートの好きなところで挙げられた「公園」は嫌いなところにもなっており、公園が中学生の居場所の一つになっていると捉えることもできる。西東京市は1人あたりの公園面積が多摩地域で下から2番目である。市内の公園がどうあるべきかが一つのテーマとなる。また、中学生や市民の居場所をどう提供するかが大きな課題となると考えられる。

先日武蔵野プレイスを見学する機会があったが、当施設は中高生の居場所作りからスタートしており、4つほどの機能を持つ多世代の居場所になっている。施設を用意するか否かは置いておいて、西東京市にもそうした市民の居場所が必要ではないか。

○委員：

中学生まちづくりアンケートにおける西東京市の嫌いなところが、「遊ぶ・勉強する場所がない」という結果だったことに驚いた。子どもの育つ権利にも関係するため、この結果は参考にしたい。

○委員：

市内の小学校に自習室がオープンしたが、常に開いているわけではない。ホールの片隅の学習スペースが西東京市にも増えてきているが、そうした場が子どもには必要である。また、就職活動中の人がオンライン面接を受けられるような場所が複合施設にあると良い。

(3) 市民参加の手法について

事務局より資料5に沿って説明

○会長：

シンポジウム、ワークショップといった市民が直接関わる場は、まずはまちの現状・課題や人、取組を知り、次に自分の仲間となる人や立場が違う人とつながるきっかけを得て、3つ目に意見を形として示すという3段階に分けられると良い。

○委員：

日程や予算的に難しいかもしれないが、西東京市のPR親善大使やいこいーななどを集客材料にするのはどうか。

○委員：

シンポジウムのターゲットは「若者」となっているが、この「若者」とは聴衆のことか、それともパネルディスカッションの登壇者か。また、シンポジウムからワークショップへの参加にどうやってつなげるのか。

市民のまちづくりの担い手としての意識を育む内容を考えるのは大変ではないか。

○事務局：

パネルディスカッションの登壇者を市内で活躍する若者としていたいと考えている。登壇者の実際の活動内容や考えを知ること、若い世代の方がまちづくりや市民参加に興味を持ってもらえるきっかけとしたい。その上で、その先のワークショップへの参加につなげていきたいと考えている。

○会長：

総合計画なので多面的な視点を持つことが大事である。若者にフォーカスしたとしても、多世代が参加していることで、シンポジウムに参加した若者が地域に居場所があるという安心感を持ち、まちに興味を持つきっかけになると良い。

○委員：

シンポジウムの場合だけではその後のつながりの可能性が低くなるのではないか。YouTube等の生配信やチャットを利用すると、障害者や高齢者も参加できる。

○会長：

オンラインの活用も事務局で検討してもらえると良い。キックオフをしっかりするのであれば、いろいろな立場の人物と若者が話し、その後市長と若者の交流につなげるという構成にしてはどうか。西東京市で活動する上の世代の姿を見せるのも大事である。

○委員：

シンポジウムのテーマが大事である。ボランティアだけでは、まちは作れないので、お金を稼ぎながら楽しんでまちづくりに関わる人の話を聞けると良い。自宅を活用して子ども食堂を始める人のもとに若者のボランティアも集まっている。パネルディスカッションの登壇者としてどのような若者をイメージするかが重要である。

○会長：

若者をシンポジウムの切り口としても、結果的に他世代ともつながってくる。子ども食堂も地域の人たちとつながり、様々な仕組みを活用しながら社会の中で取り組んでいるため、そこから社会を知ることができる。

議題4 その他

○事務局：

次回は、5月25日の午後1時30分からを予定している。

○会長：

第5回西東京市総合計画策定審議会を閉会する。

(閉会)